

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
本をよく読む人 「人の上に立つ」ための勉強法

「分析力」「常識力」「判断力」この三つは、アメリカ軍において「上司として、リーダーとして必要なもの」とされているものです。そして、一流のビジネスマンを目指す人が必ず身につけなければならない能力です。特別な何かが必要なわけではないのです。まずは、物事を徹底して分析し、そのうえで常識を持って正しく判断することができれば、物事はうまくいきます。「判断する」といっても、「徹底的な分析」と「確かな常識」というすべてのデータがそろっていれば、決して難しいことはありません。判断力とは、分析力や常識力を引き出し、そこに力を加えるためのものです。分析力、常識力、判断力の三つの力を磨くためにはどうすればいいのでしょうか。暇をみては、いい本を読むことが何より重要だと私は考えています。いい本を読むことで「常識力」が養われていくからです。そして、本を読むときは、そこに書かれた内容を単に知識とするのではなく、咀嚼して、自分のものにできるのが仕事ができる社員です。今となっては、私がトリump時代に導入した「ノー残業デー」や「がんばるタイム」が私の代名詞のようにいわれるようになりましたが、いずれも始まりはよそ様から借りてきたものでした。ただし、徹底的にやりました。徹底的にパクる一略して「TTP」と呼んでいます。徹底的にやるための努力をしたのです。

パクることができるのは「アイデア」のみです。パクったものを自分のものにするには、そのアイデアを自分の組織に合致するようにつくり上げる「プロセス」が重要になります。発明王エジソンは、「天才とは一パーセントのひらめきと、九九パーセントの汗である」といいましたが、まさにその通りです。TTP でパクったアイデアは単に一パーセントのアイデア、ひらめきをもらうだけであって、その上に九九パーセントの努力を積み重ねることで初めて形となり組織に根づきます。九九パーセントの汗をかいて初めて、物事はうまくいくのです。徹底的な努力は自分がやらなければなりません。それだけの努力と、努力した経験があってこそ、アイデアは自分の血となり肉となります。身をもって経験しないとわからないのが人間です。読書もそれと同じです。難しい本を読み切ったからといって、自分のレベルよりはるかに高いレベルの内容をすべて理解することはできません。しかし、自分がすでに経験したことより少し高度なレベルのことなら、本を読んで知識を得るだけで、自分のものにできます。直接に経験がなくとも、読んで身につけた分は自分の成長とすることができるのです。本を読んで「なるほど」と新しい発見をし、理解したら、瞬時にレベルアップが可能です。もちろん、それはあなたがすでにそこに近いところまで自分のレベルを上げてきていたからです。

もし、どんな本を読めばいいのかアドバイスを求められたら、私は「自分の実力より少し上のレベルの面白そうと思える内容が書いてある本を読みなさい」とすすめます。「ロジック」や「考え方」のレベルを上げることができ、いま目の前にある仕事の「ガイドライン」として使えるからです。また、数年後に同じ本を読んでみると、自分がレベルアップした分、さらにレベルの高い発見を同じ本から見つけることができます。ですから、本を読む人の成長は、当然のことながら早くなります。

もっとも読書家の中には、本を読んで覚えただけの知識を、実にもっともらしくいう人が少なからずいます。そこで話されることは一見、もっともらしいのですが、単なるアイデアでしかなく、つまり「一パーセントのひらめき」に過ぎません。アイデアだけでは何も変えられないのです。言葉や論理を詰め込んでも、頭でっかちなだけでは成功は手に入りません。本当に重要なのは、ひらめきを得た後に汗をかくことであり、九九パーセント分の努力をすることです。本を読んでただ言葉を理解するだけでなく、それを自分の経験をリンクさせていく努力ができる人が、本当に「本をよく読む人」であり、「本を仕事に生かす人」なのです。

一流のビジネスマンを目指す人が必ず身につけなければならない能力3つを書いてください

() () ()